

# 平成28年度学校評価結果分析と改善方策（教職員）

岩手県立宮古工業高等学校

1 回収率 100%(38/38)

## 2 総評(全体の傾向)

本校は震災から5年が過ぎ、復興・復興に向け、これまで全国から多くの支援を受けながら積極的に復興交流事業等に取り組んできた。学校の施設設備においては、普通教室10台が新規に更新され施設設備面でも、被災前の状態に戻つつある。金沢北陵高校との学校間交流も来年度を残すのみとなり、また経済同友会からの支援についても今年度で終了し一つの区切りを迎えた。なお、学校付近の復興道路整備も本格的に始まり通学路の確保もきびしい状況にある。今年度はPTA、同窓会、地域の皆様等のご支援とご協力の下、「地域に信頼される学校」として、教育活動の成果をあげることができた。

職員によるアンケートは、学校経営計画に基づいた質問事項となり項目内容、質問数で若干変更があったため前項の数値で前年度との単純比較とはならない。全項目の評価平均が5点満点の3.06となった。重点目標に対するそれぞれの分析の概要は下記の通りである。

1「保護者・地域に信頼される学校」では、7項目中4項目がA判定、3項目がB判定で概ね良好であるが、家庭との連携と悩み等を抱えた生徒への心のサポートが必要である。

2「基礎学力の向上」では、家庭学習の習慣化が昨年度から引き続きC判定であり、生徒の能力を勘案した、適切な課題の出題等の方策が求められている。

3「基本的生活習慣と社会規範の醸成」では昨年度と比較し7項目中3項目の換算点が低く生活面での指導、生徒理解や情報共有の必要性がある。

4「進路指導の早期育成と進路実現」では、今年度もきめ細かい進路指導の展開し進路決定率100%を達成している。しかし、昨年度と比較すると5項目中4項目の換算点が多少低くなっており、資格取得の意義の周知や早期の進路意識の高揚が課題である。

5「明るい職場づくり」では多く教師が多忙化を感じ、仕事の負担でも負担を感じている。多忙化解消のためのスクラップ・アンド・ビルドを進める必要がある。

今後とも、生徒一人ひとりの理解に努め、可能性を見出し、個性の伸張を図る教育を実践するとともに、多様な生徒が共に学ぶ場を充実させ、コミュニケーション能力を伸ばし、生徒や保護者、同窓生、そして市民及び県民の期待に応えられる「開かれた学校づくり」を推進していきたいと考えている。

重点目標	具体的目標等	課題	改善方策等
1 保護者・地域に信頼される学校	1 奉仕活動による心豊かでたくましい人間性を育む	①クリーン作戦の工夫 ②ボランティア活動の取組	→ 天候の関係で今年度実施できず。予備日・内容も含めての検討が必要。 → 計画的かつ必要とされる奉仕活動の実施。取り組みの紹介。
	2 自然災害に「そなえる」防災教育の充実を図る	①火災・津波避難訓練の実施 ②津波模型の活動。	→ 避難路の定期的な点検、確認。 → 工業祭等の行事などを通し全校生徒への周知。
	3 学校間交流、地元小中学校への出前授業の実施し連携強化を図る	①学校間交流の在り方 ②津波模型実演、みやこコタウン等の出前授業の実施	→ 交流事業の内容の見直し。 → 実施回数、内容の検討。
	4 家庭との連携を深め一人ひとりを大切にしたい心のサポート	①家庭との情報の共有、生徒理解。	→ 保護者との密なる連絡。「こころと体の健康観察」「ハイパーQ-U」等の調査を活用した生徒ひとり一人の理解。
	5 生徒の活動、各科の取り組み等を広く情報発信する	①ホームページのタイムリーな更新、校報「やまぼうし」の定期的発行は行われているが家庭への周知、配布のあり方。	→ ホームページの周知や校報「やまぼうし」が保護者に確実に届く手立て。
	6 開かれた学校づくりの推進と関係機関との連携強化	①開かれた学校づくりの更なる推進	→ 学校評価アンケート分析に基づいた改善と外部機関との更なる連携
	7 危機管理マニュアルの見直しと充実を図る	①復興道路工事に係る通学路の安全確保	→ 工事監理者、工事業者との連携並びに調整、生徒・保護者への速やかなる情報提供および通学路指導。
2 基礎学力の向上	8 主体的に授業に取り組む姿勢・態度の育成	①授業における目標の明示 ②学習環境の醸成	→ 生徒理解を基に個々の目標の具体的に設定。 → 授業の開始・終了時のあいさつ、授業中の取組の指導。
	9 生徒の実態に応じた「わかる・力がつく」授業の展開	①生徒の能力に対応した授業 ②教師の授業力向上	→ 習熟度別学習、チームティーチングにより学習の深化を図る。 → 互見授業等を通して、互いの指導力向上に努める。
	10 適切な課題等による家庭学習の習慣化	①基礎学力不足 ②家庭学習が定着していない ③学力の分析と適切な指導	→ 担任、教科、教務等が連携して生徒の情報を共有するとともに計画的な課題の出題を図る。
	11 朝読書と落ち着いた学習に臨む雰囲気づくり	①朝読書の意義の周知と環境づくり ②「読む」段階から「書く」「話す」段階への移行	→ 朝読書の意義を生徒に理解させ、静かな雰囲気での実施。 → 学んだことを活用し課題解決ができる経験を数多くもたせる。
	12 観点別学習評価を踏まえた学習評価の改善	①実施に向けての更なる研究・改善	→ 定期的な評価のチェックと改善。
3 基本的な生活習慣と社会規範の醸成	13 生徒指導の徹底（非行防止、整容指導、挨拶の励行、時間厳守）	①時間に対する意識が低い ②指導の取組に差がある。	→ 毎日の指導や各種研修を通して担任力の向上に努める。 → 教職員全員の共通理解の下に指導等を行う。
	14 HR・生徒会活動・部活動を通して人格形成	①諸活動への積極的な参加 ②部活動の不活発化	→ 学校行事、学校間交流そして各種大会等を通して生徒一人一人が自分の役割を自覚し確実に実行することができるよう支援・指導する。 → 部活動の活性化に向けた取り組み
	15 情報共有を図り、教育体制機能を高め不登校や退学者の防止	①目的意識が薄い生徒への対応。 ②保護者や教育相談(SC)と連携した対応が必要	→ 生徒一人一人の悩みや課題を早期に発見し、教育相談や関連諸機関や中学校、地域との連携を密にするとともに研修会を実施し生徒理解に努める。 → 生徒の動向の観察と情報共有を密にする。
	16 安全な学校生活（交通ルール、人命尊重）	①安全指導の徹底が必要 ②教職員全員での指導	→ 家庭、学校、地域が連携した指導体制を維持発展させる。 → 教職員が連携し小さなことを見逃さない指導体制を確立する。
	17 5Sの徹底による学習環境づくり	①徹底ができていない ②5Sの周知	→ 教師が付いての清掃指導、HRの整理整頓を確実に行う。 → 日常的なしつけ指導。
	18 健全育成に係る外部講師の招聘	①講演会等の継続開催	→ 関係諸機関（生活安全課、教育センター、県教委等）を積極的に活用する。
	4 進路意識の早期育成と進路実現	19 きめ細かい進路指導の展開	①進学者に対する指導体制の充実 ②就職者のミスマッチを防ぐ方策
20 早期の目標による全員の進路実現		①早期の進路意識のに向けた指導	→ 家庭との意思疎通を図りながら個別指導を充実させる。 → 就職動向、経済情勢、地域のニーズ等を的確に分析し情報提供する。 → 担任、科、進路指導部が連携を取り適確な進路指導を行う。
21 外部や地域との連携で職業観・勤労観の育成		①継続的連携の必要性	→ 産業支援センター、宮古・下閉伊モノづくりネットワーク等の外部講師を有効に活用し生徒・保護者に対し更なる進路意識の向上・育成に努める。
22 資格取得の充実により向上心や目的意識を育成		①合格率の向上 ②資格取得に対する目的意識の低さ	→ 指導方法の工夫や講習会等の充実。 → 資格の重要性、必要性を理解させる。
23 卒業生の定着状況の把握と活用		①早期離職対策 ②情報の共有	→ 卒業後も定期的に本人や企業と連絡を取り合い情報を収集するとともに原因を分析し今後の進路指導に生かす。また、情報を職員間で共有する。
5 明るい職場づくり	24 教職員の協働と融和で明るい職場の構築	①適切な仕事の分担 ②仕事に対する教職員の共通理解	→ 面談等で仕事の分担、進捗状況を適切に見極める。 → ポジティブな発言と適切なコミュニケーションを心がけてストレスが溜まらないよう工夫する。
	25 事務室との連携で円滑・適正な校務処理	①それぞれの公務処理の部分での共通理解を図る	→ 引き続き連携を密にし、共通理解を得ながら進める。
	26 多忙化解消（スクラップ・アンド・ビルド）	①仕事量の増加 ②スクラップすべき仕事の見直し	→ 公務分掌等における適正な作業分担。 → 常に仕事の効率化と見直し unnecessary なもの洗い出しを行い多忙化解消の取り組みを行う。
	27 職員の綱紀保持（コンプライアンス）	①コンプライアンス全般に関する偏りのない理解 ②綱紀保持の誓いを引き続き堅固なものにする努力	→ 職員朝会等を通じての適宜の情報提供。 → 要望等を踏まえた研修内容と研修会の開催時期を検討し適切に配置する。